

# いくの de リノベ

## 笑顔が集う “5坪”の隠れ家

区内北西に位置する桃谷地区。家と家に挟まれた細い石畳の路地の奥、思わず通り過ぎそうになる場所に「立ち呑み 桃谷きよはら」さんはあります。広さ5坪の小さな店はオープンから2年目を迎えました。民家にしか見えない外観。

日が落ちると、アプローチの石畳が赤いライトで照らされ、お店のシンボルマークが浮かび上がります。

奥まった立地ですが、「こんなところに店があれば面白い!」と、店主の清原さんはあえて選びました。築60年以上の2階建ての民家を、約2か月かけてリノベーション。



電気、ガスなどの工事以外は、すべて清原さんが手掛けました。

「手さぐりで始め、動画で調べながらのリノベーションは慣れてきたころに終わりました。」と笑う清原さん。

1階の床板をはがすと出てきた土間のコンクリートはそのままに。厨房を設け、壁にはからし色のしゅいを塗りました。お気に入り丁度いい高さにこだわったカウンター。手間がかかった分、愛着があります。和室・台所があった2階は、階段や床を取り払い、梁や柱だけを残しました。吹き抜けになったことで、店全体に開放感が生まれました。

「コストを抑えることを第一に考えた」という清原さんですが、センスが光る仕上がりです。

昔ながらの引き戸を開ければ、目に飛び込んでくる木の空間。

壁をはがし、板を貼ったことや、インテリアのワイン木箱で、洋風に様変わりした店内は、外観からは想像することができません。

黒板には、清原さんのやわらかな文字で、こだわりの手作りメニューが書かれています。

店内のアクセントになっている洗面所の赤いのれんには「段差あります↓」の心遣いが。

一人で切り盛りする5坪の店は、自然に店主やお客さん同士の距離が縮まり、会話が弾みます。

「お客さんに支えてもらっています。下町の空気感が好き。生野でずっとやっていきたい。」と話す清原さん。今日も店には、人が立ち寄り、笑顔が集います。



★立ち呑み 桃谷きよはら tree Act.3  
桃谷2-10-8 ☎080-5350-0753

ブログでは  
写真を追加して紹介しています。



生野区在住で、古い家屋をリノベーションし、自分らしい暮らしをしている方を紹介してください。

応募方法 「問合せ」へ下記事項を連絡ください。

- (電話・郵送で受付)
- ①あなたのお名前・ご連絡先
- ②紹介したい“お隣さん”のお名前・場所(可能であれば連絡先)

問合せ ☎企画総務課 ☎6715-9683  
〒544-8501 生野区勝山南3-1-19

★空き家の相談はこちら  
☎地域まちづくり課 4F ☎6715-9734



### IKUNO×グローバル



日本まで10時間(乗りつぎ1回)

(ニイハオ) 您好! こんにちは!

孫 秀燕 さん (ソン シュウエン)

内モンゴル自治区出身(中国)。中国の大学で2年日本語を学び、2003年に三重県の大学に留学。卒業後は大阪で勤め、中国出身の夫と出会い、結婚を機に生野へ。現在、在宅で仕事をしながら6才の息子さんの子育て奮闘中。家では中国語と日本語が飛び交う。

#### 故郷はどんなまち?

モンゴルって言うとゲルの遊牧生活を思われがちなんですけど、私の家は中心市街地であってマンションでした。でも、街から草原まで近くて、窓から眺める景色は壮大! ゆるやかな山々と見わたす限りの大草原なんです。あと、羊肉をよく食べるんですが、なんと朝から食べます。昼間から白酒(バイジウ)という度数の高い蒸留酒を飲む人もいて。寒い時は-47℃まで冷えるから温まるためかな。友達が集まったら、その場で歌って踊って、陽気な人が多いです。今では毎年たくさんの観光客が来る観光地なんですよ。

#### 生野のくらしはどう?

住むなら生野がいいよって友だちにも宣伝しちゃうくらい気に入ってます。天王寺や難波にもすぐ行けるし、周りの人も親切。近所のお花屋さんも「こんにちは」「こんばんは」って毎日声を掛けてくれて元気が出ます。内モンゴルは多民族ですが、生野も多くの国籍の人が住んでますよね。ここで中国の友達もでき、母国語でおしゃべりできて嬉しいです。これからもずっと暮らしたいな。

IKUNO×グローバルは生野区ブログでも発信しています。

生野区 チームいくみん通信



### いとうからき 伊藤 唐木

100年の歴史を誇る機械より精密な“技”



壁一面に並ぶ“かな”。最適な一つを選び抜く。



三代目 いとう としお 伊藤 俊夫さん



四代目 いとう ともひろ 伊藤 智弘さん

「大阪唐木指物」とは、漆を重ねることで鏡のように滑らかな光沢を持つ表面と重厚感ある味わいのある色合いが特徴の、経済産業大臣から指定されている伝統的工芸品。貴重な紫檀、黒檀、花梨などの唐木を使い、釘やねじを使わずに木を組み合わせる。

伊藤唐木では100年以上にもわたり手作業だけで茶棚や花台などの調度品を製作している。寸法を合わせるのも機械やメジャーなどを一切使わず、1mmの隙間もなく木と木を合わせていく。

唐木家具の修理の注文も全国から寄せられる。大切に使用すれば200~300年使えるという。先祖代々受け継がれている家具たちを、職人の技で蘇らせ、また次の世代へと繋いでいく。

漆塗りで光を放つ花台



伊藤唐木 巽南1-8-25 ☎6752-9412

“きらりと光る”ものづくり企業をたくさん紹介しています。



生野区ものづくり百景

ピックアップ

生野

ものづくり百景

